
第十八部隊

椿山 昇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第十八部隊

【ZPDF】

Z0293D

【作者名】

椿山 昇

【あらすじ】

日本の敗戦が見え隠れする中、日本は北海道を放棄することを決定。そんな中、札幌の最終防衛線で戦う部隊があつた。

日本の敗戦が見え隠れする中、日本は北海道を放棄することを決定した。そんな中、俺たち十八部隊は札幌の最終防衛線を守っていた。

「隊長、隊長の守りたい物つてなんですか？」

隊長の脇腹から吹き出る血を抑えながら尋ねてみた。

同じ部隊の竹中は、「なにを、こんな時に」と言っていたが、隊長の意識が薄れていく中、胸ポケットの写真を指差した。家族の写真かと思い取り出した

しかし、そこに写っていたものは『第十八訓練生』

俺達の部隊だつた。

隊長は、おれたち訓練生の教官である。

訓練では、「癪癩玉」との異名を持つほど怒ると恐ろしい教官だったが、

责任感が強く、いい教官でもあった。

そんな、隊長の歌い文句は

「自分のために、死ぬな。仲間のために死ね」

「最後の一人になつても、死んだ仲間を捨てて逃げるな」

だが、必ず最後には

「自分の命は大切にしろ、少しでも長く生きろ」

まったく、無茶を言う人だ意味がわからん。

その時は、そう思つていた。

しかし、隊長は俺達をかばつて敵に撃たれた。

仲間のために撃たれた。

十八訓練生の「写真を竹中が見ながら

「隊長、懐かしい写真をお持ちですね。自分もその写真持っていますよ」

卒業の時、隊長が入学当時に撮った写真を訓練生全員に配った時のこと。竹中は隊長に必死になつて話しかけていた。

隊長もよく意識がまだもつものだと感心してしまつ。だが、だんだん目が虚ろになつてきた。

そろそろか、竹中と俺もそう思い始めたその時、

隊長が俺の腕を必死につかみ俺の耳元でなにかをつぶやいた。

「・・わかりました。隊長」

それを聞いた後か聞かなかつたかわからないが、

隊長の手は地面におちた。

最後に俺の腕をつかんだ時の握力はとても強かつた。

無線では、退避命令が流れていった。

「退避だと！もう逃げる場所なんてどこにもないくせに」

竹中の言つとおりだつた

札幌には、いや、北海道には、もう俺たちの部隊しか残つていなかつた。

ほかの部隊が退避していく中、

新千歳空港を占拠させないために俺たちの部隊は、ここに残された。

後悔はしていない、自ら志願したのだから、

それに、隊長の最後の言葉もある。

部隊の仲間は、「中隊長ひつある？逃げるか、逃げる場所もないけど」など

いいながら俺の命令を待つっていた。

「よし、ひつなつたらガラじやないが一発喝を入れてやるつか。
ちょうど敵も攻撃が緩んできただことだし。」

「いいが、お前ら隊長が訓練生の時に口がすっぽくなるまで言つて
いたことを思い出せ。」

自分のためには死ぬな、仲間のために死ねだが、すぐには死ぬな
命は大切にしろ、少しでも長く生きろ、
俺が思うに少しでも 俺たちが長く生きればその分、日本は長く
生き残る。

だから、死ぬなとは言わない。

だが、生きろ！少しでも長く。

・・最後に、死んだ仲間を捨てていくな、と隊長はいましたが、
俺はそうは思わない、仲間の屍を乗り越えていけ。以上…

「いやぞ、総員突撃」

「なあ、中隊長、聞きたいことがあるんだが

「なんだよ、竹中」

「お前、隊長になんて言われたんだ」

俺は、にやりと笑いこういった

「秘密だ」

そう言って俺はAK-47を握りしめ戦場へ飛び出した。

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございました。
「第十八部隊」が、自分の一作目になるので
最後まで読んでいただけるかドキドキしています。
これからも色々と書いていきたいので
よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0293d/>

第十八部隊

2010年11月2日20時30分発行